

Ⅳ 市民会館・公民館の状況

1. 市民会館・公民館施設概要

会館は多様な文化的活動に対応しつつ、教育機関としての機能も果たしていく施設として、昭和52年6月に開館した。

福生市民会館・公民館 福生市福生2455 電話 52-1711

敷地面積 4,937.07 m^2

建築延面積 6,771.25 m^2

鉄筋コンクリート 地下1階 地上3階建

職 員 12人

また、武蔵野台地区に昭和54年5月、熊川地区に昭和55年5月、社会教育活動の拠点として、地域の文化活動、また学習活動の場としての公民館分館が開館した。

(1) 松林分館 福生市武蔵野台1-15-1 電話 52-3624

敷地面積 1,104.98 m^2

建築延面積 5,643.0 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職 員 2人

(2) 白梅分館 福生市熊川559-1 電話 53-3454

敷地面積 2,158.03 m^2

建築延面積 5,705.9 m^2

鉄筋コンクリート 地上2階建

職 員 2人

2. 市民会館・公民館の利用状況

施設名 月 別 区 分			4			5			6			7			8			9			1 0			1 1			1 2			62年 1			2			3			合 計		
			有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回	有 料 回	減 免 回	総 数 回			
市 民 会 館	ホ ー ル	大 ホール	5		5	23		23	26		26	30		30	14		14	40		40	17		17	53		53	24		24	10		10	19		19	30		30	291		291
		小 ホール	19		19	19		19	30		30	45		45	26		26	24		24	25		25	36		36	17		17	16		16	17		17	30		30	304		304
		小 計	24		24	42		42	56		56	75		75	40		40	64		64	42		42	89		89	41		41	26		26	36		36	60		60	595		595
	集 会 室 等	リハーサル室	0	19	19	9	15	24	8	21	29	6	9	15	8	11	19	4	29	33	0	19	19	5	22	27	0	24	24	0	26	26	2	19	21	6	13	19	48	227	275
		第1集会室	5	24	29	6	19	25	8	26	34	1	35	36	12	21	33	6	34	40	5	45	50	7	45	52	7	20	27	2	32	34	4	28	32	8	31	39	71	360	431
		第2集会室	10	36	46	7	33	40	9	41	50	2	36	38	9	33	42	6	43	49	6	44	50	5	45	50	10	28	38	0	44	44	7	42	49	4	41	45	75	466	541
		第3集会室	4	37	41	0	42	42	5	45	50	1	35	36	3	24	27	4	36	40	1	50	51	5	54	59	2	35	37	4	43	47	5	41	46	9	42	51	43	484	527
		第4集会室	10	32	42	12	26	38	17	32	49	9	29	38	6	25	31	11	31	42	14	35	49	10	36	46	9	26	35	2	35	37	6	32	38	9	36	45	115	375	490
		第5集会室	3	39	42	7	34	41	16	31	47	7	38	45	2	37	39	13	33	46	11	40	51	6	43	49	6	35	41	2	39	41	4	39	43	10	38	48	87	446	533
		第6集会室	9	30	39	6	29	35	10	36	46	9	30	39	4	31	35	7	37	44	8	36	44	9	39	48	9	27	36	6	37	43	7	29	36	7	32	39	91	393	484
		第7集会室	6	28	34	4	28	32	8	34	42	5	30	35	1	29	30	5	32	37	2	37	39	7	37	44	5	27	32	5	34	39	5	27	32	6	30	36	59	373	432
		第8集会室	6	15	21	8	2	10	10	3	13	3	5	8	2	6	8	15	6	21	10	9	19	9	20	29	7	5	12	7	13	20	1	6	7	17	4	21	95	94	189
		展 示 室	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	5	5	3	20	23	0	0	0	0	19	19	6	9	15	0	0	0	0	17	17	0	3	3	8	0	8	17	81	98
		小 計	53	260	313	59	228	287	91	277	368	43	252	295	50	237	287	71	281	352	57	334	391	69	350	419	55	227	282	28	320	348	41	266	307	84	267	351	701	3299	4,000
		計		77	260	337	101	228	329	147	277	424	118	252	370	90	237	327	135	281	416	99	334	433	158	350	508	96	227	323	54	320	374	77	266	343	144	267	411	1296	3299
公 民 館	調 理 室	1	15	16	0	40	40	2	45	47	0	35	35	0	17	17	1	21	22	3	37	40	3	29	32	2	16	18	0	22	22	0	21	21	1	30	31	13	328	341	
	美 術 室	1	9	10	0	11	11	2	15	17	0	24	24	0	16	16	1	23	24	1	41	42	1	25	26	0	12	12	0	19	19	0	17	17	1	27	28	7	239	246	
	音 楽 室	0	34	34	0	25	25	0	35	35	0	30	30	2	39	41	1	27	28	0	44	44	1	35	36	1	31	32	1	33	34	1	31	32	1	29	30	8	393	401	
	視 聴 覚 室	0	38	38	0	16	16	0	39	39	0	24	24	2	30	32	0	19	19	0	36	36	1	33	34	1	20	21	0	33	33	1	23	24	0	24	24	5	335	340	
	児 童 室	0	13	13	6	14	20	0	21	21	2	22	24	0	3	3	1	24	25	0	29	29	2	31	33	1	24	25	0	34	34	1	26	27	0	22	22	13	263	276	
	計	2	109	111	6	106	112	4	155	159	2	135	137	4	105	109	4	114	118	4	187	191	8	153	161	5	103	108	1	141	142	3	118	121	3	132	135	46	1,558	1,604	
合 計		79	369	448	107	334	441	151	432	583	120	387	507	94	342	436	139	395	534	103	521	624	166	503	669	101	330	431	55	461	516	80	384	464	147	399	546	1,342	4,857	6,199	

松 林 会 館 利 用 状 況

区 分 \ 月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
主 催 事 業	件 数	21	50	29	24	26	20	56	21	17	15	17	21	317
	人 数	608	1,422	507	409	525	262	2,365	306	280	168	311	248	7,411
住 民 の 社 会 教 育 活 動	件 数	117	117	116	116	88	99	117	97	101	84	119	128	1,299
	人 数	1,383	1,253	1,571	1,507	1,179	1,225	1,554	1,382	1,344	988	1,444	1,449	16,279
公 共 的 団 体	件 数	4	6	0	1	9	5	3	1	4	3	3	3	42
	人 数	57	153	0	40	195	215	650	25	460	105	36	55	1,991
政 治 宗 教 団 体	件 数	4	1	4	4	3	2	2	5	2	2	3	3	35
	人 数	260	80	320	320	240	160	160	400	160	160	240	240	2,740
企 業	件 数	0	0	1	3	0	0	0	1	1	1	0	1	8
	人 数	0	0	20	50	0	0	0	20	18	20	0	40	168
そ の 他	件 数	10	9	9	5	8	10	8	14	8	15	21	21	138
	人 数	284	207	195	102	268	231	129	237	127	198	373	373	2,724
計	件 数	156	183	159	153	134	136	186	139	133	120	163	177	1,839
	人 数	2,592	3,115	2,613	2,428	2,407	2,093	4,858	2,370	2,389	1,639	2,404	2,405	31,313

白 梅 会 館 利 用 状 況

月 区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
主 催 事 業	件 数	8	22	17	25	29	19	25	14	4	6	16	16	201
	人 数	106	1,121	293	458	498	316	439	502	250	111	269	368	4,731
住 民 の 社会教育活動	件 数	153	147	180	167	122	156	181	142	143	115	157	183	1,846
	人 数	2,265	1,930	2,464	2,485	1,859	2,179	2,651	2,110	2,179	1,990	2,514	2,998	27,624
公 共 的 団 体	件 数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	人 数	0	10	0	50	0	0	0	0	0	0	0	55	115
政治・宗教団体	件 数	2	0	0	0	0	0	4	1	0	0	10	8	25
	人 数	57	0	0	0	0	0	115	10	0	0	200	160	542
企 業	件 数	0	0	2	0	4	4	7	5	4	0	1	0	27
	人 数	0	0	50	0	120	120	160	112	70	0	25	0	657
そ の 他	件 数	3	3	0	0	0	1	2	2	5	3	3	1	23
	人 数	103	78	0	0	0	30	120	50	10	6	78	11	486
計	件 数	166	173	199	193	155	180	219	164	156	124	187	210	2,126
	人 数	2,531	3,139	2,807	2,993	2,477	2,645	3,485	2,784	2,509	2,107	3,086	3,592	34,155

3. 公民館運営審議会

公民館運営審議会は、館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施につき調査審議する機関である。この制度は社会教育法上必置制となっており、本市の場合、任期2年、定数10名で構成されている。

本年度の審議内容は次のとおりである。

第1回 昭和61年5月29日(木) 公民館

- 昭和61年度上半期主催事業について
- その他

第2回 昭和61年7月11日(金) 公民館および羽村町・青梅市

- 施設見学検討会
- 施設見学 コミュニティセンターじゅらく苑 (羽村町)
河辺市民センター(青梅市)

第3回 昭和61年9月19日(金) 公民館

- 公民館調査について
- 展示室の有効利用について
- その他

第4回 昭和61年10月13日(金) 公民館

- 委嘱状の交付について
- 正副委員長の互選について
- その他

第5回 昭和61年12月5日(金) 公民館

- 昭和62年度公民館予算について
- その他

第6回 昭和62年1月19日(月) 公民館

- 第25回公民館大会について
- その他

第7回 昭和62年3月4日(水) 公民館

- 昭和62年度社会教育計画について
- その他

第8回 昭和62年3月24日(火) 商工会館

- 昭和62年度予算について
- その他

4. 奨励・援助

(1) 人的援助

各団体、個人の相談に応じ、職員が必要な助言、指導、援助を行った。

分館を除き、公民館では、夜間における社会教育の活動が昼間より非常に多いことから、これら社会教育活動をする市民（団体）の相談にのり、必要な援助をするため、職員が1名残る体制をとっている。（午後5時から10時まで）

(2) 教材、教具等の利用

(3) 事務援助

印刷事務等

(4) 会場借上

大ホール 1回（市民音楽祭）

小ホール 2回（福生市民劇団バックス、福生市民コーラス）

社会教育備品貸出し状況

内訳	月	61年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	62年 1	2	3	計
利用団体		3	5	6	9	12	10	6	6	3	1	6	5	72
16ミリ映写機		1	2	2	3	6	2	5	2	1	1	5	2	32
8ミリ映写機					2									2
8ミリカメラ					2	2	4							8
スライド映写機				1								1		2
O H P									1					1
スクリーン			1	1	2	5	1	1				2	2	15
暗幕			1	2		1		1						5
ビデオセット			2	1	2	2	4	1	3	1			1	17
スポットライト		2		1						1			1	5

立川社会教育会館フィルム配送サービス取扱い

内訳	月	61年 4月	5	6	7	8	9	10	11	12	62年 1	2	3	計
利用団体		7	0	6	6	8	6	7	6	7	2	3	2	60
本数		14	0	17	13	14	13	16	14	14	4	3	4	126

5. 公民館主催事業

(1) 幼 児

保育室事業

子どもをあずけることを通して、母と子が共に自立をめざし、成長しあう場として実施した。

期 間 昭和61年5月12日(月)～10月末日(前期)午前10時～正午

昭和61年11月6日(木)～62年3月末日(後期)午前10時～正午

会 場 公民館、松林分館、白梅分館

参加者 前期 876人 後期 506人

内 容 子どもをあずけることを通して見えるいろいろな問題を学習していく。

	実施コース	回数	幼 児 数					延参加者数
			1才	2才	3才	4才	計	
前 期	松林月曜コース	18	6人	6人	2人	0人	14人	252人
	白梅水曜コース	17	7人	5人	4人	0人	16人	272人
	本館木曜コース	18	6人	2人	4人	0人	12人	216人
	本館金曜コース	17	5人	2人	1人	0人	8人	136人
後 期	松林月曜コース	16	8人	2人	1人	0人	11人	176人
	本館木曜コース	15	3人	8人	1人	1人	13人	195人
	本館金曜コース	15	6人	3人	0人	0人	9人	135人

総 括 子どもをあずけることを母親の学習につなげていくように努力した。

主催後のアフターケアをどうするかが課題である。

(2) 少 年

合同キャンプ

三館合同でキャンプを実施することにより、幅広い子どもの交流を図り、豊かな人間関係を育む場として実施した。

期 間 昭和61年8月20日(水)～22日(金) 2泊3日

場 所 五日市町青少年旅行村

参加者 本館 子どもアウトドア教室 32人

松林 子ども教室 14人

サバイバル教室 5人

白梅 たんけん教室 12人

計 63人×3日=189人

	8・20	8・21	8・22
6:30～7:00		朝 の つ ど い	
7:00～9:30		朝 食	
9:30～12:00		合同プログラム ① 川で遊ぶ ② 山で遊ぶ ③ ものをつくる (昼食含む)	清 掃
12:00～13:00	開 村 式 11:40 昼 食		昼 食
13:00～16:00	自由プログラム		閉 村 式 13:00
16:00～19:00	夕 食		
19:00～21:30	合同プログラム き も だ め し	合 同 プ ロ グ ラ ム キャンプファイヤー	
21:30～22:00	反 省 会		

講 師 各教室の実技指導者

総 括 今年で2回目を迎えた合同キャンプ。去年に比べ、子ども同志の交流を重視したプログラムを組んだ。特に2日目のプログラムは、各教室の枠をはずし、選択制のプログラムにしたため、教室をこえた子どもの交流がみられた。

子どもアウトドア教室

野外生活に必要な知識・技術を学びながら、子ども同士の仲間づくりを図る。

期 間 昭和61年6月7日(土)～8月29日(金)午後2時～4時 全14回

会 場 公民館集会室及び野外

参加者 46人×14回＝644人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 7	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介、ゲーム	担 当 職 員
6. 14	野外で遊ぼう	野外ゲームのいろいろ、班分け	
6. 28	カレーをつくろう	どのようにしてカレーをつくるのか	
7. 5	〃	班会議(役割分担等を話し合う)	久保山佳奈氏
7. 12	〃	福生公園でカレーライスづくり	久保山麻由氏
7. 19	さあ、キャンプだ	班会議(キャンプで何をするのか、役割)	
7. 26	テント・キャンプ	かに坂公園でテントをつかいキャンプ	
7. 27			石川 康弘氏
8. 1	好きなものをつくろう	班会議(何をつくりたいのか)	井上 孝氏
8. 8	〃	〃 (役割分担等を話し合う)	
8. 15	〃	福生公園で各班で決めたものをつくる)	
8. 18	合同キャンプ準備	班会議(合同キャンプの打ち合わせ)	沢村 雅人氏
8. 20	合同キャンプ	合同キャンプに参加	
8. 21			
8. 22			
8. 29	反 省 会	表彰式、まとめ	

総 括 子どもたちが、主值的に教室に関われるように班会議を取り入れた。話し合いは、なかなか進まなかったが、この教室のなかで重要なポイントとなった。

しかし、個人の主体性は図れたが、集団としての主体性はまだ身についていない。話し合いのなかで、ひとつの集団としての主体性をどうつけていくか、今後の課題である。

子どもはやし教室

地域での子どもの仲間関係の少人数化、一緒に過ごす時間の減少は、仲間の中での成長・発達や、ふるさと意識を薄いものになっている。そこで、本来子どもの中にある、ものごとへの興味・関心を、はやしの習慣と活動を通して引き出し、地域で仲間と一緒に行動できるよう、以下のように実施した。

期 間 昭和61年4月28日(月)～8月11日(月)

午後7時30分～9時 (全15回)

会 場 白梅分館

参加者 小・中学生の男女 20人×15回=300人

内 容 重松ばやし 仁羽の習得 (おどりは、おかめ・ひよっこ)

回	日 時	内 容	指 導
1 ～ 5	4月28日(月) 以後毎週月曜日	小太鼓・大カン・踊り	・仁羽せりふ習得 ・打ち方の基礎練習 鍋一はやし連
6 ～ 10	6月9日(月) 以後毎週月曜日		・リズム、間のとり方練習 ・おどり全員の取組 "
11 ～ 15	7月14日(月) 以後毎週月曜日	↓若干名は「屋台」へ ↓	・夏祭り参加練習 ・仁羽の完成 "

尚、7月26日(土)・27日(日)は、鍋一町会の協力で夏祭りに参加。終了後は“熊川子どもはやし連”として発足。実施期間中別項“父母の子育てひろば”同時並行実施。

白梅親子飯ごう炊さん

白梅子ども活動(ゲートボールひろば)からの希望で、子ども同士、親子、親、おとなのふれ合いの機会とし、日常の仲間関係の深まり、普段のおつきあいにむけ実施。

実施日 昭和61年8月31日(日) 午後8時30分～午後5時

場 所 五日市町館谷の河原

参加者 子ども16人+父母8人(父3人)+おじいさん・おばあさん3人=27人

日 時	内 容	備 考
8月31日(日) 8:30 ～17:00	9:30～11:30 三世代ゲートボールゲーム 11:30～14:00 飯ごう炊さん・バーベキュー 14:00～16:00 つり大会・スイカ割り大会・川遊び	五日市町館谷 の河原にて

地域の三世代のふれ合いの機会として楽しいひとときとなる。

たんけん教室

身近な自然の営みの実態を観察したり、野外でもいっしょに仲間と遊ぶことを通して、地域の自然や歴史にふれ、今の自分が住んでいるまち福生をより深く考えられる基礎的な体験作りとして考え、実施した。

期 間 昭和61年4月26日(土)～62年3月29日(日) 全35回

会 場 白梅会館、市内河原、滝山丘陵、草花丘陵、奥多摩など

参加者 23人×35回=805人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
4. 26	オリエンテーション	自己紹介、教室の説明など	岡田紀夫氏他
5. 31	地図とコンパス	地図に磁北線を引く	〃
6. 15	オリエンテーリングⅠ	滝山で地図とコンパスを使う練習	〃
7. 19	夏休みオリエンテーション	夏休みの計画の説明	〃
7. 31	ナイフを作ろう	グラインダーを使ってナイフを作る	〃
8. 1	〃	〃 〃	〃
8. 6	木を切り出す	山の立木を切ってみる	〃
8. 7	皮をむく	切ってきた杉や桧の皮をむく	〃
8. 8	年輪を調べる	年輪の中から成長過程を知る	〃
8. 11	たんけんキャンプ	市内の公園で1泊キャンプ	〃
8. 12	〃	〃 〃	〃
8. 13	イスとテーブル作り	丸太でイスやテーブル作りを行う	〃
8. 14	〃	〃 〃	〃
8. 15	〃	〃 〃	〃
8. 16	〃	〃 〃	〃
8. 18	合同キャンプ準備	キャンプでの食糧などの買出し	〃
8. 20	合同キャンプ	五日市町青少年旅行村でキャンプ	〃
8. 21	〃	〃 〃	〃
8. 22	〃	〃 〃	〃
8. 25	イスとテーブル作り	イスとテーブル作りの続き	〃
8. 29	〃	〃 〃	〃
9. 7	オリエンテーリングⅡ	滝山で2回目のオリエンテーリング	〃

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 10	なんでも食べちゃおう	滝山丘陵でクリやアケビを食べる	岡田紀夫氏他
10. 25	奥多摩たんけんⅠ 準備	御前山へやぶこぎに行く準備の確認	〃
11. 2	〃	御前山で未開ルートを下る	〃
11. 24	滝山林間サッカー	秋の滝山丘陵でおもいきり遊ぶ	〃
12. 7	野鳥かんさつしよう	市内多摩川で冬鳥を観察する	〃
2. 7	奥多摩たんけんⅡ 準備	冬の生藤山を登るので事前準備	〃
2. 11	〃	〃 登山	〃
3. 14	ファミリーハイキング打合せ	子どもたちの立案による場所探し	〃
3. 22	〃 下見	梅ヶ谷峠から福生まで下見調査	〃
3. 25	〃 資料作り	下見調査の結果から当日用の資料を	〃
3. 26	〃	作成する	〃
3. 27	〃	〃	〃
3. 28	〃	〃	〃
3. 29	ファミリーハイキング本番	梅ヶ谷峠から福生までハイキング	〃

総 括 今年は雨天のため中止となった回数が多いように思った。今年の夏休みのプログラムの立木を切るは、子どもたちにも職員にも初体験だったので、とてもおもしろかった。子ども同士・子どもとリーダーの結びつきが強まり、安定した毎日を過ごすことができた。

子どもまつり

子どもたちが自らのちからでイベントを作り上げるちからを身につけるように考え、実施した。

期 間 昭和61年9月6日(土)～11月23日(日) 全11回

会 場 白梅会館

参加者 20人×11回＝220人

月 日	テ ー マ	内 容
9. 6	オリエンテーション	自己紹介ゲーム 子どもまつりの内容の紹介
9. 13	何をやろうか I	各自がやりたいことを出し合う
9. 20	” II	” ”
9. 27	お化けやしきを作る	お化けやしきの材料集めと製作、竹トンボ作りを並行
10. 4	”	” ”
10. 18	”	” ”
10. 25	”	” ”
11. 1	”	” ”
11. 8	”	” ”
11. 15	”	” ”
11. 22	お化けやしき準備	お化けやしきの準備
11. 23	子どもまつり 当日	今まで準備してきた子ども達が主役になって活動

総 括 子どもたちは、具体的な作業や目標がはっきりしない時は、自主的に行動することができなかった。準備に時間が不足したと言えるが、それでも当日来た子どもたちには満足感のある笑顔が印象的だった。

子ども教室

1960年代以後、子どもをめぐる環境は大きく変化してきた。その第1は、遊ぶ仲間が極端に少なくなったばかりか、その仲間関係も著しく単純化してきたこと。地域における異年令集団のおそび仲間が少なくなってきたこと。第2に、遊ぶ空間の喪失である。かつて、野原や路地は、子どもの自由な空間であった。子どもの遊びは、軒から路地へ、路地から野へと広がっていったのである。そして、野は豊かな自然との出会いであった。遊びの空間が非常に狭くなったこと。第3に時間がなくなったこと。この遊びの三要素が極端に変化をとげてきた今日、“ある意味では”子どもの時代を喪失した子どもたちといえるだろう。そうした中で、遊びを通して、異年令の集団の形成と、仲間と一緒にになにかをつくりあげるたのしみをつかむことを目的として開催した。

期 間 昭和61年5月24日(土)～10月18日(土)午後2～4時 全24回

会 場 松林分館及び多摩川等野外

参加者 30(16人)×24=720人 ()内は参加者数のうち女子

月 日	テ ー マ	講 師
5. 24	オリエンテーション、ゲーム	齋 藤 明 朗 氏 (文教大学)
5. 31	野外ゲーム	
6. 7	ゲーム	
6. 14	原ヶ谷の林に探検、ロープ渡り	
6. 21	割りばし鉄ぼう、笛をつくる	
6. 28	かに坂公園で野外ゲーム	
7. 5	紙飛行機大会	
7. 12	多摩川の川あそび、草花丘陵	
7. 18	ロープ結びを覚えよう	
7. 25	野外ゲーム	
8. 2	川であそぼう	
8.9~10	予備キャンプ	齋藤 明朗氏・神蔵 誠氏
8.16.18	本キャンプ準備	齋 藤 明 朗 氏
8.23~25	合同キャンプ	
9. 7	ダンボールで家をつくる	
9. 13	ダンボール集め	
9. 20	ダンボールで家をつくる	齋 藤 明 朗 氏
9. 27	〃	
10. 4	〃	
10. 18	〃	
10. 25	だれでもなんでも展 展示	

夏休みおもしろ科学クラブ

科学は法則の発見のたのしみにある。公式を暗記するという学習が多い中で、仮説実験授業のおもしろさを通して、科学的思考をあそびの中で、たのしむ機会にした。

期 間 昭和61年7月24日(木)～8月15日(金)午後1時30分～3時 全5回

会 場 松林分館

参加者 12(2人)×5=60人

プ ロ グ ラ ム

月 日	テ ー マ	講 師
7. 24	レンズと光 屈折ってどんなこと	斎 藤 明 朗 氏 (文教大学)
31	浮くもの、沈むもの、軽い物が沈む、重い物が浮く	
8. 7	新ロウソクの科学	
14	おもしろ科学工作、FMワイヤレスマイク	神 蔵 誠 氏
15	〃 〃	

第4回子どもフェスティバル「こいのぼり共和国」

かつて、子ども組と呼ばれる自治的組織を子どもたちは持っていた。そして、地域の主人公として、祭りや虫おくり等の行事を地域の公的行事として担ってきた。それは、子どもの文化を、子ども自身の手で伝えることでもあった。子ども社会が本来持っていた仲間とかかわりながら、子ども自身の手で自治的能力を確保し、子ども自身の手で1つの文化をつくりあげていく場が積極的に用意されていく必要がある。子どもが仲間と一緒になにかをやりとげていく全過程を通し、子ども自身の手でつくりあげる、子どもの文化の表現としての、フェスティバルの開催である。今年は、「こいのぼり共和国」として開催された。

準備期間 昭和61年2月9日～5月10日 午後2～4時 全15回

参加者 25(15)人×15=375人

実行委員長 榎 本 隆

こいのぼり共和国

日 時 5月11日 午前10時～4時 参加者 300名

内 容 おぼけの国

錯覚の国、絵の国

絵本の国、映画の国「長くつしたのピッピの冒険」

ガラクタの国

昔あそびの国

おかしの国

世界一周の国

自然の国 福生の自然

おはなしの国 影絵芝居 「ピンクの象」演出 斎藤明朗氏

サバイバル教室

生きることへの努力をさほど必要としない現代において、子ども自身が仲間と力をあわせ、生きぬく力、知恵を身につけることを目標に、今年は“食”をテーマに実施した。

あわせて、地域での異年令の集団の形成の機会として実施した。

期 間 昭和61年6月4日(水)～8月22日(金)

会 場 松林分館及び野外

参加者 18人×14回＝252人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 4	はじめまして	教室の説明、自己紹介、室内ゲーム	担 当 職 員
6. 11	地図と磁石をつかって①	地図の読み方、磁石のつかい方、松林周 辺おもしろオリエンテーリング	佐久間直冬氏
6. 18	漬ける	保存食って何だろう。伝統的な食文化に ついて考えてみる。梅干し等を仕込む	大野悦子氏
6. 25	地図と磁石をつかって②	草花丘陵オリエンテーリング	佐久間直冬氏
7. 2	加工する	大豆からみそをつくってみる	大野悦子氏
7. 9	粉にする	小麦、米などを石うすを使って粉にする	〃
7.16.17	くんせいにする	ブロックを積んでくんせいに挑戦する	〃
7. 24	キャンプ打ち合わせ		
7. 25 26	} キャンプ	仕込んだ梅干し、梅ジュースを食べる 石うすでひいた小麦粉で手打ちうどん	斎藤明朗氏 神蔵 誠氏
8. 6	合同キャンプ打ち合わせ		〃
8. 13	〃		〃
8. 18	〃		〃
8. 20 22	合同キャンプ参加	自転車で五日市町まで行こう 仕込んだみそでみそ汁	神蔵 誠氏

総 括 梅をつける、みそを作る等々、“食”について、子どもたちは興味をしめしたが、全体的にはまとまりがなく、男子と女子との仲があまり良くなかった。

また、年々、参加者が減っており、今回も新規のメンバーは数人であり、今後、どう新しい参加者を獲得していくか、前年からのつながりで中学生が参加していたが、その位置づけをどうするか等、問題が残っている。

夏休み工作教室「からくりおもちゃを作ろう」

手づくりのからくりおもちゃを作ることを通し、創意工夫することの楽しさを味わうこと、からくりの動きの理解等を目標に実施した。

期 間 昭和62年8月27日(水)～8月30日(金) 全3回

会 場 松林分館

参加者 27人×3回=81人

月 日	テーマ	内 容	講 師
8. 29	作る①	教室の説明、からくりの説明、さあ作ってみよう	木住野利明氏
8. 30	〃 ②	できあがったら組み立ててみよう	
8. 31	色をぬる	色をぬって仕上げよう	

総 括 各人それぞれにユニークな作品を作りあげていた。母親の参加もみられ、親子で工作に熱中していたようだった。ナイフ・ハサミの使い方があぶなっかしい子どもが見られた。

冬休み工作教室「手づくりだこに挑戦」

たこづくりを通して、手先のたくみ、集中してものごとをやりきる力を養うために実施した。竹ひごは、講師・担当で竹から割り出したものを使った。

期 間 昭和61年12月25日(木)～12月28日(日) 全4回

会 場 松林分館

参加者 8人×4回=32人

月 日	テーマ	内 容	講 師
12. 25	はじめまして、たこ絵をかこう	教室の説明、障子紙から紙を切り出す	神蔵 誠氏
26	骨を組もう	骨組みをつくる	
27	仕上げ	紙をはり、張り糸、あげ糸をつける	
28	飛ばしてみよう	雪のため中止	

総 括 それぞれ思い思いのたこ絵を描き、オリジナルなたこができた。骨組み、糸目調節等難しい部分については、講師の手を借りなければできなかったが、みんな満足したようだ。最終回は雪のため流れてしまったが、お正月に親子であげた子もいた。ただし、うまくあがらなかったようだった。最後のフォローがあいまいだったところは深く反省しなければならない。

(3) 青 年

中国語会話

中国語の学習を通して、日中の文化交流をはかり、中国という国を理解していく場として実施した。

期 間 昭和61年6月9日(月)～9月8日(月) 午後7時～9時 全14回

会 場 公 民 館

参加者 26人×14回=364人

月 日	テ ー マ	講 師
6. 9	中国語発音の基礎	曾 紅 氏 (東海大学留学生)
6. 16	基 本 表 現	
6. 23	機嫌をうかがう	
6. 30	初 対 面	
7. 7	訪 問	
7. 14	面 会	
7. 21	質 問	
7. 28	期 日	
8. 4	時 刻	
8. 11	再 会	
8. 18	天 気	
8. 25	食 事	
9. 1	道をたずねる	
9. 8,	買 物	

総 括 学生の参加が目立った。もう少し回数を増やした方が良かったようだ。

ロックバンドのためのサウンドクリエイイト講座

横田基地とライブハウス、当市の音楽的土壌は豊かである。このなかで、かつてはハウス族と呼ばれた音楽愛好者が地域での活動を展開していた。現在の音楽愛好者である青年は、地域と何のつながりを持たぬまま活動している。この現状のなか、青年が主体的に公民館に関わり、地域と交流する場として実施した。

期 間 昭和61年8月4日(月)～9月14日(日) 午後7時～9時 全10回

会 場 公民館音楽室及びライブハウスU Z U

参加者 17人×10回=170人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
8. 4	オリエンテーション	教室の説明、自己紹介	長島弁蔵氏 (元アレン ジャー)
8. 8	何を言いたいか	実 技 と 指 導	
8. 10	構成とリズム	〃	
8. 11	歌詩、テープの使い方	〃	
8. 17	メロディとコード	〃	
8. 24	インプロヴィゼーション	〃	
8. 25	MTR録音	〃	
8. 28	〃	〃	
8. 29	〃	〃	
9. 14	発 表 会	ライブハウスU Z Uで発表会	

総 括 オリジナル曲をつくり上げるという高度な目標であったため、参加者の関わり方に開きができた。しかし、発表会に向けてまとまりもでき、青年が公民館に関わるひとつのきっかけとなった。

若い市民の講座「エアロビクスダンスサイズ教室」

青年に人気のあるエアロビクスを通じて、若い人の仲間づくりを目指した。

期 間 昭和62年1月30日(金)～3月23日(月) 午後7時30分～9時30分

会 場 公 民 館 全11回

参加者 20人×11回=220人

月 日	内 容	講 師
1. 30	オリエンテーション	久保山佳奈氏
2. 6	体を動かす	〃
2. 9	シェイプアップ	〃
2. 13	〃	〃
2. 20	体力をつける。	〃
2. 27	〃	〃

月 日	内 容	講 師
3. 6	筋力トレーニング	久保山佳奈 氏
3. 13	ビデオ録画の準備	〃
3. 15	〃	〃
3. 20	ビデオ録画	〃
3. 23	ビデオ鑑賞	〃

総 括 短期間で集中して行ったため、働いている人には全部出席するのが困難だったようだ。今までに公民館へ来たことがない人には、一つのきっかけになったと思う。

青少年ボランティア講座

青少年層にボランティア活動への参加の機会を設け、その体験をとおして社会福祉への理解を深める場とした。

期 間 昭和61年6月7日(土)～7月19日(土)

午後2時30分～4時30分 全5回

会 場 公 民 館

参加者 39人×5回＝195人

月 日	内 容	講 師
6. 7	ボランティアってなあに?	木谷 宣弘氏(淑徳短大教授)
6. 14	障害者とボランティア活動	久保田武男氏(秋川市花さき村)
6. 21	老人とボランティア活動	橋本 正明氏(至誠老人ホーム)
6. 28	これからにむけて	興梠 寛氏(日本青年奉仕協会)
7. 19	体験学習説明会・レクリエーション指導	鶴 清考氏(Y. M. C. A)

総 括 今年度はじめて社会福祉協議会と共催で本講座を実施した。社協と公民館に各各かかわっている青少年を融合するきっかけとなったと思う。今後、より一層の連携をはかる必要を感じた。

20歳のつどい

成人者みずからが、成人することの意味を考え、地域の人間関係を再確認する場として実施した。例年、対象者に呼びかけ、“20歳のつどい実行委員会”をつくり企画・運営にあたるが、今年度は人が集まらず、職員が企画・運営にあたった。

日 時 昭和62年1月15日(木) 午前11時40分～午後1時

会 場 公民館 4・5集会室

主 催 福生市公民館、社会教育課

内 容 立食パーティー (司会・落語家 柳 家 小勇)

参加者 200人

総 括 ここ数年、実行委員は少なく、今年は成人者の企画・運営ですることができなかった。“20歳のつどい”そのものをもう一度考えてみる時期ではないだろうか。

(4) 障 害 者

青年学級「にじのはらっぱ」(障害者青年学級)

障害を持った青年が、集団活動をしながら仲間づくりや基礎的生活習慣を身につける場として実施する。

期 間 昭和61年5月25日(日)～62年3月15日(日)

午前10時～午後3時 全22回

会 場 公民館及び野外

参加者 24人×22回=528人

月 日	内 容	場 所
5. 25	開 級 式	公 民 館
6. 1	ハイキング	五 日 市
6. 15	ボーリング	中神ヤングボール
7. 6	公民館のつどい・クッキーづくり	公 民 館
7. 20	河川清掃	多摩河原
8. 3	プ ー ル	福 生 一 中
8. 17	プ ー ル	〃
8. 30・31	夏期合宿	まかいの牧場

月 日	内 容	場 所
9. 7	プ ー ル	福 生 一 中
9. 21	社会科見学	横 浜
10. 5	文化祭作品づくり	公 民 館
10. 19	〃	〃
11. 2	文 化 祭	〃
11. 30	障害者弁論大会・NHK見学	世田谷・NHK
12. 7	ハイキング	青 梅 丘 陵
12. 21	クリスマス会	ひこばえ幼稚園
1. 11	新 年 会	市民体育館
1. 18	映 画 鑑 賞	立 川
2. 1	ハイキング	滝 山 城 趾
2. 15	合宿打合せ	公 民 館
3. 1・2	冬 期 合 宿	草 津
3. 15	閉 級 式	閉 会 式

総 括 開設2年目をむかえ、毎日のプログラムも順調に進行するようになった。今後は、より親密な信頼関係の中で学級生のかかえる生活課題の解決を図れるように努力したい。

聴覚障害者のための映画会

聴覚障害者のために字幕付き邦画を上映し、映像文化に接する機会を設けた。

会 場 公 民 館

参加者 76人

月 日	作 品 名	時 刻	入場者数
4. 26(土)	里見八犬伝	午後7時半	20
7. 11(金)	坊っちゃん	〃	18
8. 29(金)	アラスカ物語	午後7時	17
12. 5(金)	セーラー服と機関銃	午後7時半	21

総括 入場者数が少ないようだが、市内の対象人口（約90人）からすると今後もそう増加も望めないようである。しかし、まったく邦画を楽しむ機会のない聴覚障害者にはこの映画会は貴重な場であろう。

(5) 婦 人

婦人学級「みんなでつくる保育室」

公民館主催の学級であるが、学習内容を参加者が選択できるよう日時と場所だけを館側が設定し、内容については学級の中で参加者と職員が話し合いながら作っていくことにした。ただし、保育室併設の婦人学級であるので柱は、地域の中での子育てを旨とするために公民館を井戸端とし、そこから仲間づくりを第一の目標とした。

日 時 昭和61年11月21日～昭和62年3月13日 午前10時～正午 全15回

場 所 公民館 1・2集会室

参加者 8人×15回＝120人

月日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 21	オリエンテーション	学級の内容と保育室に子どもをあずける意味、諸注意を説明	
11. 28 12. 5・12	仲間づくり	参加者に生いたちを自己紹介してもらい、仲間づくりを行った	
12. 19	テーマをさがす	子育てを通して起こる様々な問題を分類し、その中で学びたいことを選択した	
12. 26	保育室の様子から	保育室の子ども達の様子を話し合いながら、保育のあり方を学んだ	下里 恵子氏
1. 9	テーマをさがす	12月19日につづき学習テーマを話し合った	
1. 23	保育室の様子から	保育室で起こったことを中心に保育のあり方を学んだ	増田 公子氏
1. 30	幼児教育とは何？	子ども達を伸び伸びと育てるためには、どうしたら良いか。自然とのふれあいの中から学ぶことの大きさを知った	細谷勇太郎氏

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 6 2. 13	子どもにとって良 い本とは	子どもにとって良い本とは何か。大人が選ぶ ものが良いとはいえない。子どもの自主性を 大切にしていくことを学んだ	赤木 幹子氏
2. 20	保育室の様子から	子ども達の発達状況から子ども達同志がかか わりあうことの大切さを学んだ	佐々木京子氏
2. 27	講義の中から	3回の講義の中で学んだことをもう一度全員 で話し合った	
3. 6	ビデオを見ながら	保育室の様子をビデオを見ながら話し合い、 保育日誌では伝えきれない部分を学んだ	
3. 13	自主化にむけて	講座終了後にも子ども達の関係が続けられる ように話し合った	

総 括 育児を通して母親達のつながりを深め、子育てと地域の関係について考えて行くために、まず、仲間作りを第一の目的とした。そのために講義の内容についても自分達の意見を出し合い、話し合いの中からプログラミングしていった。これは仲間同志の理解を深めるためには十分な効果があったが、子育ての中での問題提議だけにとどまり、女性や地域もふくめた問題まで話しを広げて行くことができなかった。

婦人学級「共に育ちあうために」

家事、育児、仕事等の女性をとりまく問題を自分にひきつけて話しあい、次のライフステージへのステップ台にすることをねらいとして行った。

期 間 昭和61年5月16日(金)～10月31日(金)午前10時～正午 全17回

会 場 公 民 館

参加者 7人×17回＝119人

月 日	テ ー マ	講 師 ・ 他
5. 16	オリエンテーション	
5. 23	自己紹介	
5. 30	女性のライフサイクル	折井美那子氏（女性史研究家）
6. 6	保護者学習会	佐々木京子氏（公民館保育者）
6. 13	私の子育て	
6. 20	子育てってなあに？	岡本 富郎氏（白梅短期大学）
6. 27	〃	
7. 4	保護者学習会	下里 恵子（公民館保育者）
7. 11	父親の子育て	
8. 29	新しい女と男のかかわりを	折井美那子氏
9. 5	保護者学習会	増田 公子氏（公民館保育者）
9. 12	私の将来	
9. 19	子育てと家事と仕事	佐々木京子氏
9. 26	私の子育て	岡本 富郎氏
10. 3	保護者学習会	下里 恵子氏
10. 17	母と子が共に育ちあうために	折井美那子氏
10. 24	学級に参加して	

総 括 参加者数が少なかったためか、いまひとつ母親どうしのつながりがひろがらなかった。

オモチャを考える

幼児を抱える母親たちの日常の関心事の一つに、「オモチャ」があると思う。今回はこのオモについて自ら製作することを通して、多角的視点を身につけるよう実施した。

期 間 昭和61年5月14日（水）～10月8日（水） 全17回

会 場 白梅会館

参加者 16人×17回＝272人

月 日	テ マ	内 容	講 師
5. 14	オリエンテーション	自己紹介、教室の説明など	
5. 21	公民館保育の始まった理由	公民館保育の歴史的背景など知る	熊谷 真弓氏
5. 28	福生の公民館保育は？	上記の内容を深める	
6. 4	母親の学習する意味とは？	子どもをあずけて学習する意味など	熊谷 真弓氏
6. 11	幼児の様子から - (1)	子どもたちの様子や問題などを聞く	公民館保育者
6. 18	豊かな遊びを創出するために	オモチャ図書館の歴史や現状を聞く	小林るつ子氏
6. 25	〃	オモチャの遊び方・利用方法など	〃
7. 2	オモチャを考える	前2回の話から私たちの方向を出す	
7. 9	オモチャを作る - (1)	具体的なオモチャ＝人形劇作り開始	原嶋 卓三氏
7. 16	〃 - (3)	人形の製作やシナリオについて	〃
7. 23	幼児の様子から - (2)	夏休みの過ごし方や日常の様子など	公民館保育者
7. 30	オモチャを作る - (3)	人形や背景の製作	原嶋 卓三氏
8. 27	〃 - (4)	シナリオの完成	〃
9. 3	〃 - (5)	配役や動きの練習	〃
9. 10	〃 - (6)	小道具などの完成	〃
10. 1	幼児の様子から - (3)	子どもたちの様子を聞く	公民館保育者
10. 8	まとめと反省	人形劇の上演	原嶋 卓三氏

総 括 人形劇作りは、主婦という日常性から脱却し、新たな人間関係を創出する方法としては、すぐれたものだと思う。母親同士の強い信頼関係を生み出すことができた

家庭教育学級「ともに育ちあう子育てをめざして」

幼児の成長、発達を考えていくとともに、主婦のおかれている状況を見つめ直し、これからをどう生きるか、という視点で実施した。

期 間 昭和61年11月10(月)～昭和62年3月23日(月) 全16回

会 場 松林分館

参加者 9人×16回＝144人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11.10	オリエンテーション	学級の説明、簡単な自己紹介、役員を決める	中川キミ子氏
11.17	保育室って何だろう	初回の担当者の発言をもとに保育室について	
12. 1	保護者学習会①	保育室のようす、「フォーカス」を読んで	
12. 8	自己紹介①	運営会議の報告、自己紹介	
12.15	” ②	自己紹介	
1.12	プログラムの検討	自分が学びたいことを出しあい、話しあう	
1.19	幼児の成長・発達①	映画「さくらんぼ坊や2・3」を観る 運営会議の報告	小林富美子氏
1.26	保護者学習会②	「フォーカス」を読んで	
2. 2	幼児の成長・発達②	映画「さくらんぼ坊や4・5」を観て	
2. 9	” ③	映画を観ての感想、話し合い	細谷勇太郎氏
2.16	子どもと遊ぶ	ころりん村幼児園の実践を通して	
2.23	保護者学習会③	「フォーカス」を読んで、運営会議の報告	下里 恵子氏
3. 2	ともに育ちあう子育てをめざして①	子育てのめざすもの	武田 京子氏
3. 9	” ②	ともに育ちあう子育て	”
3.16	保護者学習会④	「フォーカス」を読んで	高崎 文江氏
3.23	話し合い	夫との関係、嫁・姑の関係、他の学級に参加して	

総 括 学級初回の担当者の発言より、暗く重苦しい雰囲気になったが、そのことから保育室の理解、参加者同士のつながりが濃いものとなっていった。そして、参加者みずからが自分の学級というとなえ方ができたようだ。

参加者の年齢層がかなり広がったが、知恵を交換しつつ交流できたように思う。一名、途中で参加を取り止めた人がいる。そのフォローをしきれなかったことが無念であった。

家庭教育学級（手づくり絵本）

子どもの成長をテーマに、手づくり絵本をつくり、また、乳幼児の発達やこどもが育っていくために必要な文化環境や子育ての知恵を学び合う機会とした。

期 間 昭和61年5月12日（月）～10月20日（月） 午前10時～12時

会 場 松林会館 全18回

参加者 18人×18回＝325人

月 日	テ ー マ	講 師
5. 12	オリエンテーション	武 藤 順 子氏
5. 19	お互いに良く知ましょう	〃
5. 26	子育てや子どもの文化について語ろう	〃
6. 2	手づくり絵本について	〃
6. 9	どんな絵本をつくろうか ストーリーをつくろう	〃
6. 16	絵本のわくぐみを考えよう	〃
6. 23	子育て Ⅱ（保育室だよりを読む）	〃
6. 30	絵本の技法、まめ本づくり	〃
7. 7	絵本の制作	〃
7. 14	絵本の制作	〃
7. 21	絵本の制作	〃
7. 28	子育てを考える Ⅲ（保育室から）	〃
9. 1	製 本	〃
9. 8	製 本	〃
9. 22	創作絵本完成会	〃
9. 29	子育て、いま子どもたちは、保育室から	〃
10. 6	子どもの文化を考える	〃
10. 13	あしたに向けて	〃

幼児教育学級「親と子の成長とは」

親と子の成長について、一人で悩むのではなく、皆で意見を出しあったりして、一緒に考えて
いこうと実施した。

期 間 昭和61年5月15日(木)～10月23日(木)

午前10時～正午 全18回

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 15	オリエンテーション	講座の説明、役員を決める	
5. 22	お互いを知りましょう	自己紹介	
5. 29	〃	〃	
6. 5	保護者学習会	1ヶ月たっての子どもたちの様子	増田 公子氏
6. 12	あたりまえの育児Ⅰ	本当の育児って何だろう	斎藤 次郎氏
6. 19	あたりまえの育児Ⅱ	〃	〃
6. 26	話し合い	先週の講師の話について	
7. 3	保護者学習会	保育室の様子、保育室とは	中川キミ子氏
7. 10	親は今	親はどういう子育てをすればいいか	大堀 容子氏
7. 17	話し合い	先週の講師の話について	
7. 24	子供をとりまく状況	今日の子供をとりまく状況	大堀 容子氏
9. 4	話し合い	どんな夏休みを過ごしたのか	
9. 11	保護者学習会	保育室の様子	小林富美子氏
9. 18	話し合い	保育日誌について	
9. 25	子供の絵本と文化	子供の絵本について	赤木 幹子氏
10. 2	話し合い	公民館に子どもを預けて	
10. 9	保護者学習会	子どもだけの成長	中村けい子氏
10. 16	まとめと反省会	公民館保育室って何だったのか	

総 括 親と子の成長とは何かを、様々な講師の話や参加者同志の話し合いで、それぞ
れが何かをつかんだのではないと思う。

婦人学級「子どものあそびを考える」

大人がつい見すでしがちな子どもの“あそび”の意味を考え、成長と発達に欠かせない
“あそび”の意義を考える機会とした。

期 間 昭和61年11月6日(木)～昭和62年3月5日(木)

午前10時～正午 全15回

会 場 公 民 館

参加者 11人×15回＝165人

月 日	内 容	講 師
11. 6	オリエンテーション	
11. 13	自己紹介	
11. 20	〃	
11. 27	子どもの現状	岡本富郎氏(白梅短大助教授)
12. 4	保護者学習会	
12. 11	子どもとあそび	岡 本 富 郎 氏
12. 18	仲間とあそび	〃
1. 8	保護者学習会	
1. 14	あそびの中で育つもの	岡 本 富 郎 氏
1. 22	中間のはなしあい	
1. 29	おとなの役割(Ⅰ)	岡 本 富 郎 氏
2. 5	保護者学習会	
2. 19	おとなの役割(Ⅱ)	岡 本 富 郎 氏
2. 26	はなしあい	
2. 5	ま と め	

総 括 公民館保育室併設の講座であったが、そちらの運営に比重が大ききかれ、
“あそび”の本質に迫るには期間が足らなかったようである。

女性史講座

女性として、母として、さまざまな矛盾をかかえた婦人が 婦人解放、自立へ向けての道を さぐり、婦人問題の解決に向けての糸口を歴史を通してさぐる機会とした。

期 間 昭和61年10月29日～昭和62年2月18日

午後2時～4時 全8回

会 場 松林会館

参加者 8人(8)×9回=72人 ()は女性の数

月 日	テ ー マ	講 師
10. 29	オリエンテーション	担 当 職 員
11. 12	戦後の婦人の歩み	早川紀代氏(女性史研究家)
11. 19	資料読み	担 当 職 員
11. 26	占領下の婦人運動	早 川 紀 代 氏
12. 3	資料読み	担 当 職 員
1. 14	大衆・婦人運動の成立	早 川 紀 代 氏
1. 28	高度経済成長と婦人 主婦論争の経緯	早 川 紀 代 氏
2. 8	高度経済成長と婦人	〃
2. 18	母親運動の歴史	萩原きみ代氏(母親連絡会)

婦人学級「しらうめイブニングひろば」

生活、社会変化の中で、婦人にとり家庭生活のほか、フルタイム・パートタイム・家内労働(自営・内職)等、仕事に係るケースが多い。また、息子・娘の成長・独立・結婚からおばあさんの立場へ、そして、老後への備え、展望を見出す時期にある。この生活年齢上の課題解決・地域での人と人とのつながり・生活づくりにむけ、以下のように実施した。

期 間 昭和61年10月6日(月)～昭和62年2月9日(月)

午後7時30分～10時 全13回

会 場 白梅会館(2小体育館ほか)

参加者 おおむね40～50代の婦人 23人×13回=299人

内 容 子育て以後の婦人の生き方、仲間づくりについて

回	日 時	会 場	内 容	備 考
1	10. 6 PM7:30 ~10:00	白梅会館	自己紹介、学級の進め方、おしゃべり軽体操、そのⅠ	吉野チエ氏 (体育指導員)
2	10. 13 "	"	おしゃべり軽体操Ⅱ	話題・息子、娘の成長・独立 ・ " の結婚(同居・別居)
3	10. 20 "	館外活動	会食・ボーリング	・ 老後について ・ 趣味、仕事、私の活動 他
4	10. 27 "	2 小	軽スポーツを楽しもうⅠ	・ テニボン ・ インディアカ
5	11. 3 "	体 育 館	" Ⅱ	・ ユニホック(他)
6	11. 10 "	白梅会館	合 唱	誰でも知っている歌と一緒に
7	11. 17 "	"	高齢期を活々と過ごすために	瀬川 武氏 (国立音大)
8	1. 12 "	"	老後の生活と地域福祉Ⅰ 私達の備え	川辺 進氏 (保護司)
9	1. 19 "	"	" Ⅱ 地域活動について	倉橋良子氏 (小金井老問研)
10.	1. 25 "	"	おしゃべり軽体操Ⅲ “仲間づくりのこれから”	"
11	2. 2 AM9:00 PM4:00	日 の 出 ホ ー ム	特別養護老人ホーム 旧体験学習	吉野チエ氏 (体育指導員)
12	2. 2 PM7:30 ~	白梅会館	合 唱	市バスにて。熟年 ひろばと合同
13	2. 9 "	"	なつかしいうた 今、楽しくうたう	瀬川 武氏 (国立音大)

総 括 40. 50代の婦人の仲間づくりがふくらみとなり、以後、ミクリ会として
活動をすすめることになる。

(6) 成人・一般

市民文化教室

1. 主 催 福生市公民館・福生市文化連盟

2. 目 的 多くの市民に趣味や実技、教養に関する初歩的学習の機会を提供することによって、市民の文化諸活動への参加を促し、市民文化活動の拡大に役立てる。
公民館は、連盟の力を伸ばすとともに市民の学習の場を拡大していく。文化連盟は、連盟の持つ力を市民に提供することによって、市民文化形成のリーダーの役割を果たすと同時に、組織の拡大(参加者や学習面)に役立てる。

文 化 連 盟 共 催 （ 8 コース ）

コース	開 講 期 間	内 容	指 導 者	参加人員
俳 句	6月13日(金)から 全10回 午前	現代俳句のやさしい作り方と 鑑賞の仕方	来住野臥久氏	150人
人 形	6月4日(水)から 全10回 午前	木目込み人形作り	酒井 虹晨氏	100人
社交ダンス	6月12日(木)から 全10回 夜間	初心者対象の基本ステップ	緑川 俊次氏	480人
詩 吟	7月23日(水)から 全10回 夜間	岳心流の初歩	岡野 心雙氏	80人
茶 道	8月18日(月)から 全10回 午後	裏千家茶道の初歩	山田 宗恵氏	200人
民 踊	9月5日(金)から 全10回 午前	ほたる小唄、船込み流し唄 花火音頭 他	三藤 祥泰氏	70人
編物手芸	8月11日(月)から 全10回 午前	初秋向けのあみもの	堂田きよ子氏	90人
書 道	9月5日(金)から 全10回 午前	初心者向けのかな、漢字	私市 石蘭氏	290人

公 民 館 主 管 （ 3 コース ）

コース	期 間	内 容	指 導 者	参加人員
ワ ー プ ロ 教 室	6月4日から8日まで 全5回 午前・午後・ 夜間の3コース	ワードプロセッサの基本操 作と簡単な文章作成	成田 彦六氏	255人
夫 婦 料 理 教 室	7月3日(木)から 7月23日(水)まで 全9回 夜間	和食、中華、洋食を3回づつに わけ、その料理のルーツなどを 探りながら実際に作った	高橋 清氏 吉田 達雄氏	99人
ステンドグ ラス教 室	11月21日(金)から 12月19日まで全5回	ステンドグラスをつかった 宝石箱の作成	多賀 節氏 津田 映子氏 鹿住 雅子氏	75人
ワ ー プ ロ 教 室	62年3月14日から 18日まで 全4回 午前・午後の2コース	ハンディタイプのワードプロ セッサの基本操作と簡単な 文章作成	遠藤 理恵氏	120人

文学教室「漱石を読む」

気軽に文学にしたいし、だれでも文学のおもしろさがわかる場として実施した。

期 間 昭和61年10月13日(月)～12月15日(月) 午前10時～正午

会 場 公 民 館 全14回

参加者 22人×8回=176人

月 日	内 容	講 師
10. 13	三四郎 (愛の三部作)	武 田 秀 夫 氏 (「私塾霞国語 教室風景」著者)
10. 20	それから (")	
10. 27	門 (")	
11. 10	彼岸過迄 (我執の三部作)	
11. 17	行 人 (")	
12. 1	こ ころ (")	
12. 8	道 草	
12. 15	明 暗	

総 括 人気のある作家の作品だったせいか、参加者も多く、熱心だった。わかりやすい話だったので、漱石の作品もたのしく読めた。

市民大学講座・法律コース「60代からの法律」

身近な法律を学ぶことによって、法の精神を学び、我々の社会に法がおかれている意味を考える機会とする。

期 間 昭和61年11月12日(水)～12月10日(水)

午後7時30分～9時30分 全5回

会 場 公 民 館

参加者 13人×5回=65人

月 日	内 容	講 師
11. 12	相 続 (1)	石 川 稔 氏 (上智大教授)
11. 19	" (2)	
11. 26	遺言と遺留分	
12. 3	遺言の書き方	
12. 10	老後保障	

総括 相続・遺言等にしても高齢者のみ関係あるものではないが、名称のせいと比較的高齢者の参加が多かった。人数は少ないが、この法律コースも定着層が生まれ、この層が広がっていくことが望まれる。

16ミリ発声映写機操作講習会

16ミリ発声映写機の操作技術の修得と、視聴覚教材の知識を身につける機会とした。

期 間 昭和61年6月26日(木)～29日(日)

午後7時～10時(29日のみ午前9時～午後4時) 全4回

会 場 公 民 館

参加者 13人×4回=52人

月 日	内 容	講 師
6. 26	視聴覚教育について	柳下 貞一氏 (文京大教授) 佐藤 勝貫氏 上島 茂氏
6. 27	16ミリ映写機操作練習	
6. 28	〃 〃	
6. 29	個別操作と修了式	

総括 保母関係・子ども会関係等でも、ほぼ取り切った感があり、参加者が毎年減少する傾向がある。また、講習会修了者に対する練習会の必要を感じた。

講座「公民館調査にみる公民館」

昨年実施された公民館調査をもとに、市民の望む公民館の姿をさぐる機会とした。

期 間 昭和61年10月1日(水)～10月22日(水)

午後7時30分～9時30分 全4回

会 場 公 民 館

参加者 7人×4回=28人

月 日	内 容	講 師
10. 1	公民館調査の概要	奥田 泰弘氏 (中央大教授)
10. 8	他市町との比較	
10. 15	市民は公民館に何を求めているか	
10. 22	これからの求められる公民館とは	

総括 単なる“感じ”だけでなく、データに裏付けられた公民館の分析を、市民と共に行ない、市民の求める公民館の姿をさぐることができたことには意義があった。

公民館（本館）利用者研修会

公民館を利用しているサークルが情報交換や交流をはかり、また、普段使っている公民館のことを考える機会とした。

期 間 昭和62年3月12日（木）
午後7時30分～9時30分 全1回
会 場 公 民 館
参加者 30人

月 日	内 容	講 師
3. 12	私達にとって使いやすい公民館とは	奥田 泰弘氏（中央大教授）

総括 公民館利用サークル数にしては参加者が少なく、今後より広範に自分達の使う公民館について考える機運をもちあげる必要を感じた。

第5回 公民館のつどい

公民館利用者相互の交流と親睦を深め、公民館で活動する意味を考える機会として実施した。

期 間 昭和61年4月27日（日）～7月12日（土）
実施日 昭和61年7月6日（日）
会 場 公 民 館
参加者 約300人

月 日		内 容
4. 27	第1回実行委員会	つどい趣旨、メインテーマ、企画委員決定
5. 11	第2回 “	つどいのイメージ
5. 16	第1回企画委員会	
5. 25	第3回実行委員会	内容、時間帯の話し合い
5. 30	第2回企画委員会	

月 日		内 容
6. 8	第4回実行委員会	つどいの内容が決定 部屋割りの確認、当日の役割分担 つどい当日
6. 27	第3回企画委員会	
6. 29	第5回実行委員会	
7. 4	第4回企画委員会	
7. 6	公民館のつどい	
7. 12	反省会	

父母の子育てひろば

子どもの社会性伸長など、地域での集団活動が少ない昨今、親・おとなが意識的に集団育成に係わることが求められている。そこで、親が側面育成者となり、活動を支え、環境づくりをしていくための力を養う場として、以下のとおり実施した。

期 間 昭和61年4月28日(月)～8月25日

午後7時30分～9時30分 全7回

会 場 白梅会館

参加者 子どもはやし教室参加の父母とPTA地区活動ほか一般

18人×7回＝126人

内 容 地域での子どもの仲間集団形成と親の役割や係わりについて

回	月・日・曜	内 容	講 師
1	4. 28 (月)	父母会 子どもはやし実施説明会	野口裕教氏(はやし関係者)
2	5. 31 (土)	私達おとなの子ども時代と今の子どもの環境	川辺 進氏(保 護 司)
3	6. 16 (月)	一般参加 いま 地域での子ども仲間集団づくりの大切さ	田村光男氏(瑞穂中教諭)
4	7. 7 (月)	子どもの集団づくりと父母会づくりについて	野口裕教氏(はやし関係者)
5	7. 25 (金)	夏祭り参加打ち合せ	—
6	8. 11 (月)	父母会 夏祭り参加反省会	野口裕教氏(“)
7	8. 25 (月)	子どもはやし連父母会結成について	—

総 括 地域の実際の子ども集団づくりから、親・おとなの役割を考える契機となる。

また、夏祭りには、父母による地区組織連絡や安全随行・食事・傷害保険等、条件づくりの活動となる。終了後は、熊川子どもはやし連父母会として発足。

「第5回 白梅会館利用者発表会」実行委員会

(1) 日頃の公民館活動の成果発表の場とする。(2) 個々のグループが同一の目標に向かって活動することにより、交流・親睦を深める機会とする。(3) 公民館活動を地域にひろめ、熊川の学習・文化のひろば(祭典)となることを目標に、61年5月を実施の目処に、実行委員会を組織し、準備をすすめた。

(実施期日、会場、参加者は、以下の表のとおり)

実行委員会実施日程

実 施 日 時	内 容	参 加 者
S 61年 4月6日(日) 午前10時～正午	「フィナーレのひろば」企画・進行・プログラムづくり	6団体 10人
4月16日(水) 午後7時30分～9時30分	「全体実行委員会」全企画の集約と分担	18団体 25人
5月9日(金) 午後7時30分～9時30分	「最終全体実行委員会」全企画確認・PR・当日向準備作業	25団体 30人

今回の発表会から、話し合いのひろば「語らい茶屋」の企画・場づくりとなる。

「第5回 白梅利用者発表会」

5月24日(土)1日目

○展示「手芸・籐細工・生花・囃子面と衣装・子ども絵画・七宝焼・紙粘土細工・サー

クル活動展」 午前10時～午後5時 (入場 約209人)

○茶 席 「久田流お点前」 午後1時～4時

(入場 約70人)

○親と子のひろば 映画上映「ベルとかいじゅう王子」 午後2時～3時30分

「てんぐ祭りとかき大将」 (入場 約50人)

5月25日(日)2日目

○展示「手芸・籐細工・生花・囃子面と衣装・子ども絵画・七宝焼・紙粘土細工・サー

クル活動展」 午前10時～午後4時 (入場 345人)

○語らい茶室 「世代を越えた交流の楽しさと高齢化社会への今」を語ろう

午前10時～正午 (入場 約45人)

○演示のひろば 「民謡・詩吟・おはやし・コーラス・踊りのひろば」

正午～午後3時30分 (入場 約330人)

○フィナーレのひろば 「その場で楽しめる ダンス・民謡・軽体操・ゲーム・合唱を！」

午後3時30分～4時30分（入場者 約180人）

参加団体 28団体 全入場者数 554人

「第6回 白梅会館利用者発表会」実行委員会

前年の目標を更に深め、充実化にむけ、昭和62年5月実施を目処に、実行委員会を組織し、準備をすすめた。

（実施期日、会場、参加者は、以下のとおり）

実行委員会実施日程

実施日時	内 容	参 加 者
S 62年3月5日(木) 午後7時30分～9時30分	これまでの積み上げ、昨年をふりかえり、今回 第6回の目標・計画	22団体 25人
3月29日(日) 午前10時～正午	参加グループ確認・準備日程・当日タイムスケ ジュール・分担	23団体 27人

以後の実行委員会は、次年度に継続して実施とする。

白梅利用者研修会

公民館白梅分館は、開館以来6年8ヶ月。現在約50のグループが活動し、文化活動に加えて、学習活動も増える状況にある。そこで、公民館が熊川地域での生活・文化形成やまちづくりの場となるために、利用者の研修の機会として、以下のように実施した。

実施日 昭和62年2月25日(水) 午後7時30分～10時

会 場 白梅会館

参加者 白梅分館利用者 30人

実施日	内 容	講 師
2月25日(水)	公民館の今後の役割 「民衆の生活文化づくりと現生活社会問題の学習」	小林 文人 氏 (学芸大学教授)

総 括 社会教育・公民館不用論が一部あるとき、公民館が現実にある生活社会問題解決の学習の場・人と人との出会い、知り合う場・民衆の生活文化創造の場となることへの提起となる。尚、以後、利用者発表会実行委員会実施の契機となる。

サンデーハイキングクラブ

ここ3～4年の間、中高年を中心にハイキング熱が高い。しかし、十分な経験や知識が伴わず起きた事故も多い。今回は、一人でも安全に日帰りハイキングができる力を身につけるような機会として実施した。

期 間 昭和61年5月28日(水)～10月3日(金) 全12回

会 場 白梅会館、滝山丘陵、高尾山、浅間嶺

参加者 27人×12回＝324人

日 時	テ ー マ	内 容	講 師
5. 28	オリエンテーション	自己紹介、教室の内容と説明	佐久間直冬氏
6. 6	用具に強くなろう	ハイキング用具について詳しく学ぶ	
6. 13	地図とコンパス	コンパスの使い方と磁北線の引き方	
6. 22	オリエンテーリング(1)	滝山で地図とコンパスを使う	
7. 11	岩に出会ったら?	具体的な場面での技術を学ぶ	山崎 順一氏
7. 19	夏山の気候を知る	夏山での具体的変化と対応を学ぶ	高橋 忠儀氏
8. 23	登山計画の作り方	登山計画書の意味や作り方を学ぶ	〃
9. 5	計画書を作る－(1)	高尾山へ登る計画を作る	佐藤 文子氏
9. 7	オリエンテーリング(2)	滝山丘陵でオリエンテーリング	
9. 15	奥多摩を歩く－(1)	高尾山へハイキングに行ってみる	
9. 19	計画書を作る－(2)	浅間嶺へ登る計画を作る	
9. 28	奥多摩を歩く－(2)	浅間嶺へ登り未開ルートを下る	

総 括 自分の身体と知識で山を歩くということが、案外浸透しなかった。他人まかせに“連れていってもらおう”というスタイルが多いように感じた。もう少し続けて行う必要がありそうだ。

私たちのまちづくり

私たちが日常住んでいる福生市は、三多摩各市の中でも都市生活基盤整備が進んでいる。都市化が進む中、より住みやすいまちを作り出すには、私たち市民一人ひとりがまちづくりに積極的に参加することが必要不可欠なことと思われる。そこで今回は、地方自治に参加するキッカケとなるように考え実施した。

期 間 昭和61年11月6日(木)～12月10日(水)

会 場 白梅会館・草花丘陵

参加者 14人×7回＝98人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 6	オリエンテーション	私たち自らが参加するまちづくりとは?	
11. 12	都市作りの今日的動向	都市作りの中に占める自然環境の果す意味	井原 満明氏
11. 16	市内を眺めてみよう	草花丘陵から市内の緑の様子を眺めてみる	宮岡 一雄氏
11. 19	福生市の都市計画	都市計画担当者から過去と将来の話を聞く	関口 清氏
11. 26	市内の河原の問題	市内の多摩川で今何が問題となっているか	〃
12. 3	草地・農地の利用	オープンスペースの意味を再考する	宮岡 一雄氏
12. 10	ま と め	まちづくりに具体的な参加方法を話合う	〃

総 括 今進んでいる公園作りに関心が集中し、住民が担当課に聞きに行くなど関心が高まった。参加者はやや少なかったが、充実した内容を期待された。

自然観察会

市内を流れる多摩川を中心に、水生昆虫・植物・野鳥を観察することを通して、私たち生活と自然との関係を知る機会とした。

期 間 昭和61年6月1日(日)～昭和62年3月22日(日) 全7回

会・場 市内河原

参加者 149人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 1	植物観察会	初夏の多摩川を観察する	宮岡 一雄氏
7. 20	水生昆虫観察会	多摩川と平井川の水生昆虫の実状を観察する	田中 和明氏
10. 5	植物観察会	初秋の多摩川の植物と「河原のうごき」について	宮岡 一雄氏
2. 22	野鳥観察会	広い水面に生活するカモ類を中心に観察する	栗原 仁氏 岡田紀夫氏 他
3. 1	〃	河原で見られる鳥全般を観察する	
3. 15	〃	狭山湖のカンムリカイツブリなどを観察する	
3. 22	〃	草花丘陵の「林の鳥」を観察する	

総括 雨天のため、植物観察会と鳴く虫の観察会が中止となってしまった。参加総数に大きな変動はないが、参加する層が広がってきている。

英会話教室基礎コース

公民館が行った市民対象の調査によると、午後の時間帯に積極的に活動できる人々が多いにもかかわらず、主催事業が少ないことが明らかだった。そこで、主に家庭婦人を中心に初級の英会話教室を開き、語学を学ぶことのキッカケを提供した。

期 間 昭和62年1月8日(木)～3月27日(木) 全10回

会 場 白梅会館

参加者 15人×10回=150人

月 日	内 容	講 師
1. 8	自己紹介の仕方を学ぶ	C・チュン氏
1. 22	あいさつの仕方を学ぶ	〃
1. 29	天気についての表現を知る	〃
2. 5	家族についての表現方法を知り、各自実践する	〃
2. 19	自分の出身地の紹介や特産物の紹介の仕方を学ぶ	〃
2. 26	日常生活上必要な会話について学習する	〃
3. 5	道を聞かれた時の教え方の学習	〃
3. 12	道のたずね方の学習	〃
3. 19	時間の聞き方、伝え方について学習する	〃
3. 26	ていねいな表現や習慣について学習する	〃

総括 基礎コースということで募集したが、応募者も多く抽選で参加者を決めた。参加者の中には、日常会話に不自由でない人もいて、毎回の内容が次第にレベルアップした。最終的には、日本語は不要なクラスとなった。

語学を学ぶこと自体きびしいことだが、大勢で共通の課題を設定して取り組む体験をして、仲間と語らう楽しさを覚えたという主婦が多かった。

白梅親子映画会

身近な公民館で、親子そろって見られるような作品を提供するとともに、映像を通して様々な問題を考える機会として実施した。

会 場 白梅会館

参加者 498人

上映日	上 映 作 品	上 映 時 間 等	入場者
5. 24	ベルと怪獣王子、天狗まつりとがき大将	午後2時30分 1回	30人
6. 21	チャップリン名作特集	午後7時30分 1回	7人
6. 22	〃	午前10時00分1回	3人
7. 30	怪獣と少年たち	午後7時30分 1回	15人
8. 16	この子残して	午後2時00分 1回	20人
17	〃	午後2時00分 1回	22人
9. 27	チルベンとあざらし	午後2時、7時 2回	20人
10. 25	マリンエクスプレス	午後2時、7時 2回	25人
12. 13	こむぎ色の天使	午後2時00分 1回	45人
12. 14	〃	午前10時00分1回	15人
12. 26	ダ ン ボ	午前10時00分1回	120人
12. 27	〃	午後2時00分 1回	30人
2. 1	うさぎの眼	午前10時午後2時 2回	26人
3. 7	くまのプーさん、ビーバーの谷	午後2時00分 1回	90人
3. 8	〃 〃	午前10時00分1回	30人

ちょっと早いクリスマス

日常的に公民館を利用しているグループがお互いに交流し、地域の子どもたちを対象にクリスマス会を開いた。

月 日 昭和61年12月21日(日)

会 場 白梅会館

参加者 60人

PTA入門講座

PTAにはじめてかかわる人、はじめて役員になったという人たちを対象にPTAの歴史と役割について理解する機会とした。

期 間 昭和61年5月29日～6月19日 毎週木曜日 午後1時30分～3時30分

会 場 松林会館 全5回

参加者 11人(11)×5回=55人 ()は女性

月 日	テ ー マ	講 師
5. 29	私とPTA、PTA活動はたのしい	重本弘子氏(東村山公運審)
6. 5	PTAとは何をするところか、PTAの目的	藤田 博氏(中大講師)
6. 12	PTAの運営、組織の原則	〃
6. 19	学級PTAや地区活動を豊かにするためには	〃
6. 26	話しあい	担当職員

教育講座「中学校、中学生」

ここ10数年来、偏差値、内申書問題、校内暴力、いじめ、自殺等々で「中学校」の問題が社会問題になってきている。中学生はこの3年間で心も体も大きく変化していく時期であり、進路をめぐる親も子も悩みが深い。中学校は単なる高校への通過点ではないはず。今日、様々な問題をかかえる中学校、中学生に視点をあて、中学校荒廃の原因をさぐりながら、今日の中学校の問題を考える場とした。

期 間 昭和62年2月26日(木)～3月26日 毎木曜日 全5回

会 場 松林分館 午後7時30分～9時30分

参加者 15人(10)×5回=75人

月 日	テ ー マ	講 師
2. 26	中学校、中学生の現実	田村光男氏(瑞穂中学教諭)
3. 5	中学校ってなあに	後藤重三郎氏〔進路を開くために〕著者)
3. 12	中学生の心と体	〃
3. 19	進路を考える	〃
3. 26	中学校の変遷	伊ヶ崎曉生氏(東大講師)

市民大学文学「万葉を読む」

古典、万葉集の系統的理解とともに、時代背景をさぐり、古典文学をたのしく学ぶ機会とした。

期 間 昭和61年11月12日(水)～12月10日(水) 毎水曜日 全5回

会 場 松林分館 時 間 午前10時～12時

参加者 8人(8)×5回=40人

月 日	テ ー マ	講 師
11. 12	人麻呂の時代	高 野 正 美氏 (都立立川短大教授)
11. 19	人麻呂の人と作品 - 長歌を中心に	
11. 26	〃	
12. 3	〃	
12. 10	〃	

ホビー教室「金工作」

消耗社会となって久しい今日、欲しいものはなんでも商品として手にすることが出来る時代である。少なくとも1960年代はじめ頃まで、生活に必要なものは、ちょっとした手仕事としてつくり出してきたものである。そこに、生活の知恵と生活の技があった。いま、生活にかかわる技は極端におとろえてきている。一方、高度な情報社会と管理社会の中で、人々の精神は日々緊張とストレスを高め、生活者としてのアイデンティティを喪失し、一層、生活不安にかりたたれている。こうした現実の中で、あらためて、人間性を回復する場として、ホビーは大事な意味を持ってくる。そのホビーも、かつて生活者として物をつくるということは、非常に技術と技能が要求された。そこにはじめて「民芸」としての文化性を持ったのである。

ホビーというものが、一つの文化性を持つためには、基本的技術の習得と加え、その広がりや深さが要求される。そうした場として、今回、「金工作」を課題としてとりあげた。

期 間 10月30日(木)～11月27日(木) 全5回 毎木曜日

会 場 松林分館 時 間 午後7時30分～9時30分

参加者 17人(2)×5回=85人 ()内男子

月 日	テ ー マ	講 師
10. 30	金工作入門、道具と使い方	石橋初子氏（彫金家）
11. 6	切り回し	
11. 13	切り回し、成形	
11. 20	成形	
11. 27	かしめ、作品完成	

講座「男の子育て－性別役割分業を超えて－」

男性を対象とした婦人問題の講座として、子育てを切り口に、性別役割分業を考えていくものとした。

期 間 昭和62年3月11日（水）～3月25日（水） 全3回

会 場 松林分館

参加者 3人×3回＝9人

月 日	テ ー マ	講 師
3. 11	わが家の子育てを語りあう	谷内 真理子氏
3. 18	子育ての目指すものは……	
3. 25	性別役割分業について考える	

総 括 対象を男性にしぼった初めての試みではあったが、予想どおり参加者は少なかった。しかしながら、参加者はそれぞれ家庭の状況、自分のかかわり方を出しあい有意義なものとなった。このような場を積極的にすすめることによって、女だけでなく、子育てにかかわる男のネットワークづくりの必要性が確認された。

松林文庫

地域の子どもにすぐれた児童図書や絵本を提供する場として、地域文庫を開催した。

期 間 昭和61年4月5日～3月26日 毎木曜日 午後3時～5時

会 場 松林分館

参加者 49回 424人

松林木工教室「ディレクターチェアを作ろう」

実用的で収納にも便利な折りたたみイスの制作を通して、手作りのよさ、創作することのよろこび、木工の専門的技術の習得をめざした。また、大人同士の横のつながりをつくる機会として実施した。

期 間 昭和62年2月21日(土)～3月28日(土) 全6回

会 場 松林分館

参加者 7人×6回＝42人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
2. 21	オリエンテーション	自己紹介 他 木取り	秋池 俊彦氏
2. 28	墨 つ け	毛引き等による墨つけ	
3. 7	加 工 1	部材の加工	
3. 14	〃 2	〃	
3. 21	〃 3	〃 仮組み、ペーパーかけ	
3. 28	仕上げ	塗装、組み立て、布張り	

総 括 折りたたむということから、かなり寸法、直角に気を使いながらの工作は、しんどい作業であったが、皆、熱中して制作に励んだ。仕上がった時のみんなの満足そうな顔が印象的であった。講師のちょっとしたアドバイス、コツ等により、技術的な面でも上達がみられた。

松林ひだまりハイキング「棒ノ折」

五月の一日、新緑を満喫しながらの山歩きを楽しむ。

月 日 昭和61年5月18日(日)

場 所 棒ノ折山

参加者 26人

講 師 佐久間 直冬氏 佐藤 克年氏

コース 電車 バス 歩行30分 歩行80分
 福生駅——川井駅——上日向——百軒茶屋——棒ノ折山頂(昼食)
 歩行30分 歩行100分 歩行30分 歩行40分 電車
 ——黒山——岩茸石山——惣岳山——御岳駅——福生駅

総 括 初心者向きとはいってもかなりきつい山行であった。当初、高水山——軍畑のコースを予定したが、参加者の状況により上記に変更した。

松林分館利用者交流会

利用者相互の交流、館との連絡調整などのために実施した。

会 場 松林分館

月 日	内 容	参加者
4. 19	松林分館の運営について、公運審より、情報交換 他	10人
8. 30	だれでもなんでも展の開催について、公運審委員の選出について、情報交換……他	13人

総 括 今年も2回しか行うことができず、とりわけ下半期に一度ももたれていないということは、職員の怠慢と言わざるを得ない。

利用者相互の交流をさらにすすめていき、かつまた、公民館の理解の輪をひろげていかなければならない。また、夜間利用者へのアプローチも充実していかなければなるまい。

松林分館利用者交流会学習会

分館利用者を中心に、社会教育・公民館の理解をすすめ、自分たちの活動に位置づける意味で実施した。

期 日 昭和61年6月28日(土)

会 場 松林分館

参加者 15人

講 師 小野 征夫氏

内 容 公民館とは………

総 括 参加サークルも少なく、リーダー層が中心であり、なかなかメンバー一人ひとりにひろがっていない。一部には、なんとなくわかってきた………というような人たちも出てきており、さらに学習会を続ける必要がある。

だれでもなんでも展（松林分館文化祭）

地域に開かれた文化祭をめざし、１）地域の中で、こつこつと作品を作っていたり、日常生活の中で行われている文化的な営みを掘りおこし、そうした人々を地域でつなげていく。

２）そうした人々をつなげる役割を分館利用者が担っていく、３）サークルの活動を発表し、地域にひろげていく、という三つの柱をもとに、利用者交流会が主体となり、実行委員会を結成し、準備、実施にあたった。

○準備日程、内容

- 9. 6 実行委員長の選出、展のイメージづくり、テーマの検討
- 9. 13 参加サークルの集約、基本的主旨の確認、テーマ決定、ポスター作成について
- 9. 20 ポスター作成・掲示の状況報告、呼びかけ文の検討、チラシの作成について
全体のイメージを出す
- 9. 27 チラシ案決定、配布についての検討、実演・実習、模擬店部門検討
参加サークルの状況集約（その２）
- 10. 4 呼びかけ文の決定、当日時間帯決定、ポスター原案決定
- 10. 9 展示物の販売などについて、当日役員体制について、個人作品の応募状況報告
会場のレイアウト案検討、サークル紹介について
- 10. 18 当日役員体制の決定、前日・当日のながれ確認
- 10. 24 作品搬入、会場づくり
- 10. 25・26 当 日
- 11. 6 反省会

○今年のテーマ 「手づくりをかじっちゃおー」

ー ひろげよう 創るよろこび 見るたのしきー

○当日のプログラム

10月25日（土）

- ・展示コーナー（分館利用サークル作品、活動紹介、一般応募作品等の展示）
- ・映画「長くつ下のピッピ」「チャップリンのアートオブコメディー」
- ・おしゃべりコーナー

10月26日（日）

- ・展示コーナー
- ・映画「長くつ下のピッピ」「チャップリンのアートオブコメディー」
- ・マジックショー（福生アマチュアマジッククラブ）

- ・人形劇（ピノキオ、マンガクラブ有志）
- ・民謡踊り（福生民謡会）
- ・模擬店（おでん、やきそば、わたあめ、ポップコーン）
- ・実演コーナー（七宝焼、竹工作、みんなで描コーナー）
- ・喫茶コーナー

一般応募作品 216点 個人参加 57人

参加サークル 23団体 延入場者数 3,177人

松林ホームシアター

主に子どもたちに、すぐれた映像文化、生の音楽等の鑑賞の機会として実施した。

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
4. 26	ウォルト・ディズニーアニメ特集	午後2時、3時30分	308人
5. 14	長くつ下のピッピ	午前10時30分	80人
6. 21	チャップリン名作特集	午後2時	24人
22	〃	〃	14人
7. 19	日本昔ばなし小品集	午前11時	60人
	真夏の夜の夢	午後2時、7時30分	23人
8. 14	シネマフェスティバル for Peace		
	象のハナ子	午後2時	52人
	僕の村は戦場だった	午後7時30分	15人
8. 15	はだしのゲン 第1部	午前10時	46人
	チャップリンの兵隊さん	午後2時	28人
	平和の谷	午後7時30分	10人
8. 16	ピカドン、トビウオぼうやはびようきです		
	おこりじぞう	午前10時	39人
	チャップリンの兵隊さん	午後2時	13人
	この子を残して	午後7時30分	14人
8. 17	この子を残して	午前10時	24人
	核戦争3分前、にんげんをかえせ、ヒロシマ、ナガサキ核戦争のもたらすもの	午後2時	11人

月 日	内 容	上 映 時 間	参加人数
8. 17	抵抗の詩Ⅱ	午後7時30分	14人
10. 4	マリンエクスプレス	午後2時、4時	61人
10. 25	長くつ下のピッピ	午後1時	100人
	チャップリンのアートオブコメディー	午後3時	60人
26	長くつ下のピッピ	正 午	60人
	チャップリンのアートオブコメディー	午後3時30分	30人
11. 29	ムーミン、川本喜八郎人形アニメの世界	午後2時、7時30分	80人
12. 26	ダ ン ボ	午後2時	68人
27	ダ ン ボ	午前11時	52人
1. 31	兎の眼	午後2時、7時30分	23人
2. 28	アンデルセン童話アニメ小品集	午前11時、午後2時	140人
3. 28	ようこそ手づくり楽器の世界へ	午後3時	20人

(7) 高 令 者

やじきたハイキング

高令者を対象としたハイキングで、ネーミングのとおり脚力にあった楽しい山歩きを第一の目的とした。

月 日	コ ー ス	講 師	参加人数
10. 2	五日市広徳寺と逆沢付近	吉野 チエ氏・吉原 寿子氏	25人
12. 1	秩父 日向山		25人
3. 16	奥多摩 高水山		30人

総 括 コースや日程等の作成については、講師の吉野、吉原両氏と協議し、実踏を行った上で実施しているが、来年度からは、準備会をもうけて参加者の意見をもっと取り入れて行きたい。

熟年ひろば

都市化・核家族化とともに、当市も高齢化が進展している。退職後の生活・生き方、生活年齢的な位置での役割変化の中で、いかに高齢期を健康で生きがいある生活としていくかがもてめられる。そこで、これまでの生活経験を、社会変化を見つめ、たえず自己を養い活かし、若い世代とともに地域生活を育てることが生きがいとなるよう、以下のように実施した。

期 間 昭和61年6月27日(金)～62年3月6日 午前10時～午後1時

原則隔週金曜日 後半毎週金曜日 全23回

会 場 白梅会館及び館外

参加者 60歳以上の高齢者20人+それ以下7人 27人×23回=621人

内 容 高齢期の生活づくりと仲間づくり

回	月 日	内 容	備 考
1	61. 6. 27	企画案紹介・自己紹介	話し合い
2	7. 11	福生(熊川)の文化財	メンバーから話題
3	7. 25	私達の人生の歩み I	話し合い
4	8. 15	社会参加と世代交流	原田正二氏 (大正大学教授)
5	8. 29	生物としての人間	宮岡一雄氏 (明治大学教授)
6	9. 12	交流の場、語らい茶屋検討	話し合い
7	9. 26	福生防空日誌(戦中福生)	メンバー話題提供
8	10. 10	福祉制度、老人ホーム各種	〃
9	10. 24	町 の 話 題 I	話し合い
10	11. 7	私達の人生のあゆみ II	〃
11	11. 21	町 の 話 題 II	〃
12	12. 5	年末懇談、それぞれの1年	〃
13	62. 1. 9	新 年 会	懇 親
14	1. 15	ドンドン焼見学参加	熊川神社
15	1. 23	子どもの生活能力、育成について	萩原元昭氏 (群馬大学教授)
16	1. 25	東京都公民館大会、参加	分科会分散参加
17	1. 30	大会参加感想と今後の活動	話し合い
18	2. 6	地域での子どもの育ち、おとなの姿勢	〃
19	2. 9	日の出ホーム一日体験学習	バス見学、婦人と合同

回	月 日	内 容	備 考
20	2. 13	体験学習の感想会	話し合い
21	2. 20	民俗文化と民衆の心	メンバー話題提供
22	2. 27	文化財の話、白梅利用者研、感想	話し合い
23	3. 6	都市の公民館について	小林 文人氏 (学芸大教授)

総 括 私達の人生の歩みから仲間づくりや知恵の交換へ。歴史・民俗・文化から町の話題。参加体験学習での認識など、高齢期の生活づくり・仲間づくりの契機となる。以後、自主活動で実施。尚、別項、熟年陶芸教室と関連並行実施。

熟年陶芸教室

高齢期を創造的・意欲的に過ごし、精神的に充実した生活とすることがもとめられる。そこで、造形活動（陶芸作品づくり）を通じ、自己の創意・工夫の伸長・保持にむけて、以下のよう
に実施。

期 間 昭和61年7月4日（金）～10月17日

午前10時～午後1時 全8回

会 場 白梅会館（陶芸作業室）

参加者 “60歳以上 10人+以下13人” 23人×8回＝184人

内 容 陶芸作品づくり「土粘りから作品のできるまで」

回	月 日	内 容	講 師
1	7. 4	自己紹介、作品のできるまで紹介、土粘り	柴田 繁 氏 (陶芸家)
2	7. 18	土粘り、茶わん製作	
3	8. 8	茶わん仕上げと自由製作	
4	8. 22	自由製作仕上げ、釉薬の調合	
5	9. 5	素 焼（事前に・の取り扱い、説明紹介）	
6	9. 19	素焼絵付け、釉薬かけ	
7	10. 3	本 焼	
8	10. 17	製作の茶わんでミニ茶席、合評、今後の活動について	

総 括 老若混えての作品づくりは、仲間づくりにもなり、以後“熟陶会”として年2～3回の作品づくりで自立化。また、“熟年ひろば”への参加で活動をすすめることになる。

6. 第25回東京都公民館大会

福生市公民館が大会事務局を担当し、各区市町ならびに各部会から選出された企画委員によって大会の企画、立案から運営、実施に至るまで活動した。

(1) 開催主旨

東京の公民館は40年という歳月の中で、住民の学ぶ権利の保障に努力してきた。

今、高齢化社会や高度情報化社会、新しいコミュニティへの対応がいわれている。

一方、臨時教育審議会の答申に於いては生涯学習体系の移行がいわれ、これまでの社会教育の役割の変更を求めている。時には、公民館の解体まで叫ばれている。

こうした状況の中で、21世紀にむけて、公民館が積みあげてきた。

公的社会教育の可能性をより確実なものにしていく。

(2) 主催 東京都公民館連絡協議会

(3) 日時 昭和62年1月25日(日) 午前9時～午後4時

(4) 会場 福生市公民館・市民会館・福生市福祉会館

(5) 日程 9:00 9:30 10:00 12:00 12:40 3:40 4:00

受付 Ⓒ	開会行事 Ⓒ	全体会 Ⓒ	昼食	分科会 Ⓒ 福	閉会行事 Ⓒ
---------	-----------	----------	----	------------	-----------

※ 会場：Ⓒ 公民館・市民会館 福 福祉会館

(6) 全体会(シンポジウム)「臨教審における生涯学習の動きと公民館」

登壇者 島田修一(中央大学教授)

〃 松下圭一(法政大学教授)

〃 矢口光子(臨教審第2部会専門委員、

農村生活総合研究センター専務理事)

〃(司会) 鐘ヶ江 晴彦(専修大学助教授)

(7) 分科会

回	分科会名	分科会テーマ	助言者
1	公民館保育室	保育室のことをどのように話し合えば、学習になるのか。婦人問題の視点から	藤村 美津 (平塚幼稚園)
2	地域福祉と公民館	地域における障害者の学習と生活	大須賀郁夫 (第一若駒の家)

回	分 科 会 名	分 科 会 テ ー マ	助 言 者
3	婦人問題と公民館	性別役割分業を克服するために	折井美那子 (女性史研究家)
4	高令者の学習と公民館	高令者の学習活動のあり方を考える	原田 正二 (大正大学)
5	青年と公民館	21世紀をつくる青年と公民館の学習のあり方を考える	久田 邦明 (相模女子大学)
6	子どもと公民館	手をつなげる子どもに	酒匂 一雄 (東京都教育庁)
7	差別と人権を課題とする社会教育	人権学習がめざすもと パートⅡ	川村善二郎 (東京経済大学)
8	公民館とコミュニティ施設	町づくりのために公民館とコミュニティ施設との連携を考える	鐘ヶ江晴彦 (専修大学)
9	公民館の役割と課題	臨教審における生涯学習の動きを学び、社会教育の将来を考える	島田 修一 (中央大学)
10	公民館職員	公民館の職員としての役割について考える	徳永 功 (国立市教育委員会)
11	公運審・利用者・公民館	公民館・公民館をとりまく市民と公運審のかかわり	奥田 泰弘 (中央大学)

7. 市民会館主催事業

1. 目 的

会館は、市民の文化・芸術の拠点として、また豊かな人間性をはぐくむ場として、会館のもつ機能、設備を内容面で市民に還元してゆくことを目的としている。

その一環として、市民会館主催事業は、市民によりよい鑑賞の機会を提供し、生活の潤い、いこい、また、文化、芸術の創造の契機となるよう行われる。それは、市民が鑑賞者として、“素晴らしいもの”を愛する心をいつまでも持ち続け、会館が主催者として、市民の求める“素晴らしいもの”を十分に検討し、それに対応するという相互のより高い調和を目的とし、開催する。

2. 目 標

定着化したオーケストラコンサート、ポピュラーコンサート、落語鑑賞会、寄席、市民名画劇場と、幅広いジャンルからの企画により、多くの市民の参加を望んでいる。

また、主催事業の内容の充実とともに、催しを全市民に知ってもらうため、宣伝活動の徹底を心がける。

公演種目	実施日	会場	入場料金	発売人数	出演者
落語鑑賞会	昭和61年 10月12日(日)	市民会館 大ホール	前売券 700円 当日券 800円	236人	三遊亭 円 歌 三遊亭 歌 代 三遊亭 歌ち栗
五輪 真弓 コンサート	昭和61年 12月6日(土)	市民会館 大ホール	指定 S席4,000円 A席3,500円	1182人	五 輪 真 弓
初笑い 福生寄席	昭和62年 1月11日(日)	市民会館 大ホール	指定 1,000円	664人	三裕亭 楽太郎 獅 子 てんや 瀬 戸 わんや ゆーとびあ マギー留美 三遊亭 楽 大
ふっさスプ リングコン サート	昭和62年 2月8日(日)	市民会館 大ホール	指定 3,000円	795人	前 橋 汀 子 新日本フィルハーモニー交響楽団

市民名画劇場

上映作品	上映日	上映回数及び入場者
評 決	5月24日(土)	午後・夜間 2回 123人
夢と追憶の日々	7月12日(土)	午後・夜間 2回 240人
9時から5時まで	9月20日(土)	午後・夜間 2回 77人
男はつらいよ・口笛を吹く寅次郎	11月 1日(土)	午後・夜間 2回 125人
シェルブールの雨傘	12月13日(土)	午後・夜間 2回 107人
アイスクャッスル	1月17日(土)	午後・夜間 2回 56人
ライトスタッフ	3月14日(土)	午後・夜間 2回 126人

いずれも市民会館ホール